



渡部 一夫 議員

### 高齢運転者支援士補

補の認定を受けるには、受験資格を満たし、試験に合格をしなければなりません。今後さらに増える高齢者運転と家族を支え、事故を減らすことで地域貢献につながる役割を担うものと考え、対応を含め見解を伺う。



原町自動車教習所

高齢運転者支援士補の認定は、高度な認定試験です。合格者は、高齢者の運転支援に対する高度な知識と指導力を備えた者となるこ

とから、南相馬市内の自動車教習所に対して積極的な認定取得を働きかけ、さらなる事故撲滅につなげていく。

### 復旧・復興、復興・創生について

原発事故の収束の終わりが見えない中で「復興は道半ば」であり、「復興期間が過ぎれば復興した(ことになる)」ということはない。乱暴すぎるのではないかと、また「震災前の同じ暮らしに戻しただけでは復興とは言えないのでは」と思うが、見解を伺う。

原発事故の被害が続く福島復興は、中長期的な対応が必要であると認識している。阪神・淡路大震災の兵庫県当時の貝原県知事が「単に震災前の状態に戻すのではなく、21世紀の成熟社会にふ

## 「創造的な復興」を目指して

さわしい復興をなし遂げる」との趣旨で「創造的な復興」という言葉を使いましたが、東日本大震災においても国の基本方針の中に用いられていると認識している。被災した市民にとって、生活再建のために震災前より少しでも安寧に暮らすことができる復興が必要であると考えている。

質問を終えて  
議会における浄化作用の大切さを感じる。それは、議会の真ん中に市民の皆様がいるために必要なことだから!

- その他の質問
1 南相馬市立病院病床再編計画について
2 放課後児童クラブ(学童保育)について
3 後期高齢者医療保険制度について



細田 廣 議員

## 鹿島区地域ビジョンについて

鹿島区地域協議会で、各行政区長さんや、区内各種団体の意見を集約し、ビジョンをまとめ市長へ提言しています。市民の方々の希望、要望が一つでも姿勢に反映できることを願います。

真野川漁港と、牛島地区の一体的な利活用の見解を伺う。



真野川漁港と牛島地区

牛島地区利活用検討地域住民と意見交換会を開催し、牛島地区と真野川漁港の一体的な利活用策を再考する。スポーツ環境の充実について伺う。みちのく鹿島球場のサブグラウンド整備に向けて検討している。健康づくりトレーニングセンターやランニングコースの整備も予定している。

質問を終えて  
市民の方々から寄せられた声をまとめた質問です。市政に反映されるよう期待します。

都市計画道路岩妻茂手線、あさひ地区から鹿島小方面へ接続する整備計画について伺う。JR常磐線、国道

- その他の質問
1 デマンドタクシーの取り組みについて
2 30km圏外のほ場整備事業について
3 河川内の立木堆積物除去事業の進捗状況



志賀 稔宗 議員

## 小児科の入院機能再開を

安心の医療体制充実のため市内の小児科入院機能の再開が是非とも必要なことと、思うが取組みは。

寄附講座等の施策を活用して専門医師の確保を目指しているが困難な状況だ。県立医大との連携を強め小児科入院受入れを目指す。

救急車の行先が決まらずにしばらく滞留する現状がある。最後の砦として救急車を断らない市立病院であって欲しいが。

休日、夜間の救急受入れは地域内6病院



小児科の入院機能再開に期待を

原ノ町駅前広場の整備は南相馬の玄関口として広場や駐車場等を一体的に整備を進めているが、駐車台数が

が輪番制で対応しているが、緊急件数増や診療科と患者の状態により受入れ困難な場合がある。市立病院は年間4千500件の内1千500件程受入れているが尚一層の受入れができるよう今後とも医師確保を含め努めたい。

小高の高齢化率は50%を超え深刻だ。医療介護の拠点となる入院機能を備えた施設を再開させるべきと考えるが再開への道すしは。当面無床のサテライト診療所とするが、医師確保等課題を解決したうえで有床診療所として整備を目指す。

- その他の質問
1 保育士等の処遇改善を急ぎ促進すべき
2 民間幼稚園、保育園の施設整備に支援を進め、旧型は改善を



鈴木 昌一 議員

## 病院改革に停滞は許されない!

一昨年に策定されたばかりの市立病院改革プランは、計画期間一年足らずで、病床再編計画が見直されるといふ異例の展開となった。どのような環境変化に基づくものか。

直近の患者動向、受療率、医療圏外への患者流出状況を分析、総合病院が地域の基幹病院として必要とされる医療機能を検討した結果に基づくものである。



市立総合病院

改革プランが掲げた事業モデルに変更が生じたことで、病院経営の健全化に向けた数値目標や道筋が見失われているのではないかと、改革への取組みを点検評価する評価委員会も機能を停止している。再編計画が県に認可されれば、速やかに経営の効率化等改革プラン本体の見直しに着手する考えである。

小高病院常勤医師の退職は大きな打撃! 小高病院の入院機能の再開を推し進める市長と、帰還者に多い高齢者のための訪問診療や遠隔診療の充実を主張する藤井宏二医師。意見の対立は最後まで埋まることはなかった。3年間小高の医療に携わった経験と自負に基づき、あるべき医療提供体制について発言

質問を終えて  
病床再編計画見直しで、病院健全化への取組みが足踏み状態に陥っているのではないかと。

- その他の質問
1 回復期リハビリ施設への取組みについて
2 がん治療への取組みと緩和ケア病床は医師のインセンティブ手当ての考え方は